



## 巻頭言

「あなたと共に  
いるために」

教育部長 角本浩

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。(マルコによる福音書 1章 9節)

淡々と記されています。主イエスが洗礼を受けられた時の出来事、マルコ福音書はこの一行で伝えています。マタイ福音書などに見られる「わたしこそあなたから洗礼を受けるべきなのに」とヨハネが躊躇した様子など、いっさい紹介されていません。それどころか、このマルコ福音書1章を読む限り、そこにいた誰ひとりとして、それがイエスであると分らなかった印象すら受けます。洗礼者ヨハネも、まさか目の前にいるその人が神の子、救い主であることなどわからないまま、「はい、次の者」などと言いながら、イエスに洗礼を授けていた光景が目には浮かびます。

この主イエスの洗礼を覚える主日、第一日課ではイザヤ書42章が読まれます。

見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。  
わたしが選び、喜び迎える者を。  
彼の上にわたしの霊は置かれ  
彼は国々の裁きを導き出す。

この書き出しの通り、選ばれた「主の僕」であるイエスの上に鳩のように霊が降りて来ますから、主の洗礼日にこの箇所が読まれるのは最もふさわしいと思います。と同時に、この「主の僕」が最期を遂げるイザヤ書53章も、わたしはマルコ福音書1章を読むたびに思い起こします。特に次の一節です。

彼が自らをなげうち、死んで  
罪びとのひとりに数えられたからだ。(イザヤ書53章12節)

マルコ福音書1章に記された主イエスの洗礼の記述。それは、淡々と、とりたてて何事もなかったかのように記しています。そして実際だれ一人、それが神に選ばれた僕、救い主であるとは気づきませんでした。なぜなら、イエスは「罪びとのひとり」としてそこにおられたからです。ヨルダン川で洗礼を受けるために並んでいる罪びとたちの友となるためでした。

あなたが洗礼を受けられたあの時も、主イエスは一緒におられました。もちろん今も、あなたが「生まれながら罪深く、汚れに満ち」と礼拝で罪の告白をしている時、主イエスは一緒におられます。洗礼者ヨハネすら、そこにおられるイエスに気づきませんでした。主はそこにおられます。なぜなら、イエスは、友となるために、私たちと同じ罪びとのひとりになってくださるお方だからです。主はいつも、あなたと共にあります。

日本福音ルーテル教会 九州教区

# 九州教区報

発行所 日本福音ルーテル九州教区事務所  
〒812-0028 福岡市博多区須崎町3-9  
TEL 092-281-4204・Fax 092-262-6373  
E-Mail kyushu-k@jelc.or.jp  
HP <http://www.jelc-kyushyu.org>

発行人 教区長 濱田 道明  
編集責任者 書記 野村 陽一

## 各集会報告

### 筑後地区平和礼拝

久留米・田主丸・大牟田教会牧師 宮川幸祐

8月17日、日田教会において筑後地区平和礼拝が守られました。日田、甘木、久留米、大牟田、田主丸の五教会からなる筑後地区では、各教会の女性会を中心に毎年夏に平和礼拝が守られています。今年は、野村牧師の司式・説教による平和の祈りが午前中に行なわれ、ヨハネ黙示録の言葉を通して、平和を求め願う私たちへの支えと導きとな



る説教が語られました。また午後には幕末の思想家広瀬淡窓と咸宜園についての講義が日田の歴史に造詣の深い熊谷洋一郎先生より行なわれました。日頃それぞれの教会の活動を陰になり日向になり支えている女性会がこのように一堂に会し、交流を持てる機会は貴重なものです。距離は離れていても、同じ志を持ち、同じ働きに就いている仲間存在は、大きな励ましとなります。これからもこうした繋がりを大切にし、互いに喜びを交わしあい、悲しみも分かち合い、同じキリストの体として、共に歩んでゆければと願っています。

### 中高生キャンプ報告

教育部長 角本浩

阿蘇山荘に中高生19名、大人15名の34名が集いました。テーマは「あなたは何を見たか」。阿蘇の大自然の中で何を感じ、何を受け取るのか、共に考えるキャンプにという思いから生まれた主題です。



乗馬体験をしました。馬の背にまたがり牧草地をパッカパッカと行きました。乗馬コースの中盤頃に地平線のパノラマを見渡せるところに差し掛かりますが、これを馬の背に乗って見渡したときの感動。ちょうど人がまたがるように造られている馬、険しい道も進むことができるように、という神さまのみ心を風を感じつつ思いました。

参加者の中に高校3年生の女子が2名いました。受験を控えつつ最後の夏キャンへの参加です。その姿が次へ、次へと引き継がれていく。頼もしい姿でした。

今回も女性会スタッフの皆さんがキャンプ中のお母さん。おいしいご飯を毎回いただきました。皆さまのお支えなしに成り立たないキャンプです。ありがとうございました。教区の宣教の歩みに神様の助けと導きとが豊かにありますようお祈りしています。

## 壮年連盟総会・修養会報告

壮年連盟会長 河野精一郎

第45回壮年連盟総会を9月22日、門司海員会館にて開きました。活動報告（経過）、予算案（修正）、会計報告（経過）が承認され、2014年度会長選挙では福岡地区が担当となりました。北九州地区は1年限りでしたが、福岡地区は2年担当します。また、献金先はデンマーク牧場福祉会牧場の家・



こどもの家と社会福祉法人グループ・ラムに決まりました。連盟会費について意見を求めたところ、参加しない教会・会員もいるが修養会費に充てることで良いとの意見があり、特に反対はありませんでした。尚、参加しなかった教会には修養会のDVDを送る予定です。

翌23日、門司教会にて修養会を行いました。牧場の家・こどもの家施設長の松田正幸兄より講演があり、デンマーク牧場の歴史、フリースクールから現在まで、子供たち・職員・牧場のこと等を話されました。最後に牧場のアイスクリームや牛乳の購入依頼もありました。教会と施設の関係を考えることに繋がれば嬉しいです。

## 教区女性会修養会報告

女性会会長 岩切旻世

「みんなで聖書研究～共に祈ろう～「主の祈り」を学ぶ」 6月22日（土）箱崎教会

今期の修養会は、角本浩先生（神水・松橋教会牧師）をお迎えして「主の祈り」について学びました。父のもとにある子の心で、兄弟姉妹と一緒に、神さまを中心とする心で、自分の弱さを知り、弱さの故に生かされている者同士互いに祈り合うことを教えて頂きました。学びの最後には会場の皆で手をつなぎ、共に祈りました。誰かのために祈ることと誰かに祈られていることの喜びに満ちた時となりました。また、となりびとの野口勝彦先生による活動報告会、つるしびな展示と被災地支援品販売も行いました。九州にいる私たちに何ができるのか改めて考え、憶え祈り続けることを再度強く思いました。女性会だけでなく、青年会、中高生、壮年会、J3、幼児を含め141名の集いは、熱気と恵みに満ちた祈りの時、交わりの時でした。ご参加くださった兄弟姉妹、ご協力くださった方々に感謝いたします。



九州セミナリオ 講師メッセージ

## 「ことば」をめぐるルターの思い

ルーテル学院大学名誉教授 徳善 義和



『マルティン・ルター ことばに生きた改革者』（岩波新書 2012.6）を書いた。多くのルーテル教会会員、多くのクリスチャン、さらに歴史好きなどの人々に読まれて、幸いに同日発行の五冊の中では一番出ているという（九月には第三刷で二万部を超えた）。そのせいでルーテル教会関係だけでなく、いろいろなところから講演のお招きもいただいて、感謝している。

ことばというキーワードでまとめた本だから、言語の側面でルターの母語のドイツ語と、当時の学問語のラテン語とか、知識人の言葉と庶民の言葉とかといった側面でお話しすることもあるが、中心は神のことば、聖書のことばと、人間の言葉をめぐってということになる。聖書翻訳を中心に、礼拝、説教、講義、著作、讃美歌（コラール）などといった諸テーマが関係してくる。これは彼の生涯をかけての課題だった。

今回「九州セミナリオ」の委員会からいただいたテーマも「ルターと聖書」である。これを私はルター自身に即して三点をめぐってお話ししようと準備している。第一は神のことば、キリストの福音をめぐるルターの決定的な出会いである。第二は、その決定的な出会いから出発して、ルターが聖書翻訳の際に付した『ローマ書序文』から、彼がとらえている「福音のキーワード」の理解を学ぼうと思う。第三には、晩年のルターの言葉から、聖書を読むルター自身の姿勢を学びたい。絶筆のことばを、「われわれは（神の）乞食である。これは真だ」をもって閉じたルターの信仰の姿である。そこから『ルター著作集』第二集に収めた聖書講解や『キリスト者の自由』を読むと見えてくるものがある。

こう学んでみると、今問われているのは私たち自身である、と痛感させられる。それはもちろん日常の言語をもってする、言語をめぐる私たちの姿勢でもある。さらにもっと強く、神のことばをめぐる、いやこれを求め、それに生きようとする私たちの信仰の姿勢である。これは自らがそれに生きる、いや生かされることばかりでなく、これに生きる生へと隣人を招くことも含んでいる。二〇一七年の宗教改革五〇〇年に向かう私たちの思いを整え、正したいと思う。



**連載 教会物語** 日本福音ルーテル佐賀教会の歩み

佐賀教会 中村 知子

佐賀教会は今年をもちまして120年目を迎えます。始まりは1893年、現在の松原3丁目、当時は馬責（うません）馬場明治橋通りの「佐賀十字教会」として復活祭の日に、シェーラー、ピーリー両宣教師、初代牧師山内量平先生により最初の礼拝が行われ、この時ルーテル教会としての歩みがスタートいたしました。佐賀教会の歩んだ実りある時間は即ち、日本におけるルーテル教会の歴史と同じ時間を刻んでいると言えるでしょう。

当時の場所を100周年記念の『宣教百年の歩み』の中で、16代牧師三浦芳夫先生が特定してくださっています。三浦先生が確認されてから更に30年経ち、現在も当時とほぼ変わらないまま、教会があった面影は全く見当たらず、空家や古びたアパートが建つ雑然とした町並みとなっています。

恐らく当教会は、苦労を重ねて来られた尊敬すべき大先輩方のお陰で、その後の佐賀にとって大きな軌跡を残したと思われます。1902年に開園した幼稚園は、2006年に閉園するまで、佐賀県で最初の幼稚園として多くの園児が巣立っていきました。佐賀を足懸りに、久留米、熊本と伝道の種をまき、県内にも多くの伝道所を作って来られました。また、1900年に初代会堂が、1952年には現在の会堂が献堂されました（初代会堂は大町教会に移築、その後閉鎖）。現会堂も60周年を迎えたばかりです。

それから当教会の特徴とも言える南里兄による、ろう者の伝道も行われるようになりました。深く細かいことはもっとたくさんあって、私の文章ではうまくまとめられないのが忍びないのですが、現在では皆様をご存知のレインボーハウスが同じ場所で、通所される障碍者の方々が美味しいクッキーを焼いていらっしゃいます。

佐賀教会の古き良き時代を知る教会員の方々にとっては、ウインテル先生親子二代の存在を抜きにして語れない素晴らしい時代がありました。ルターの「聖書のみ」という教えを精力を尽くして、またキリストの愛、十字架の愛を心を尽くして教えてくださった方がいらっしゃった、という表現でしか語れないことが残念に思えるほど、教会員の方の心の中に熱く、温かな存在として今も生きていらっしゃる事が集会所の中に掲げられたお二人の写真を見るたびに伝わって参ります。

母教会としての佐賀教会の信徒は年々減ってきており、普段は3~4人程で礼拝を守っているのが現状です。発祥の地としては淋しすぎるように思いますが、それぞれの胸の信仰の灯が消えることのないようにイエス様の事を覚えていたいと願います。



### 壮年連盟報告

第45回壮年連盟総会に約40名、修養会に約50名の参加がありました。懇親会にパウラサーリ宣教師の飛び入りもあり、盛会に終えられたことを感謝します。

デンマーク牧場福祉会、牧場の家・子供の家施設長、松田正幸氏には、普通には遭遇しない現場の苦勞を伝えて頂きました。教会と福祉というテーマですが、教会は上から目線ではなく、係わるなら現場に聞いてほしいという言葉が印象に残りました。

皆様のご協力、ありがとうございました。



壮年連盟会長  
河野 精一郎

### 女性会報告

6月の修養会を終え、任期も後半に入りました。今年も中高生キャンプのお手伝いで、子どもたちの笑顔を見られたことは大きな喜びでした。7月末より野村加寿子姉（大分教会）が加わり、気持ちも新たに課題に取り組みたいと思います。シルバープロジェクト、サバ神学院支援小委員会、役員選出方法の見直し等、成すべきことはたくさんありますが、紙面での情報発信と、顔と顔を合わせることの大切さを胸に留め、祈りつつ歩んで参ります。



女性会会長  
岩切 旻世

### 青年会報告

主の御名を讃美します。

いつも青年のためにお祈り頂き感謝します。

また、今年も各教会で島原そうめんをたくさんご購入いただき、この場を借りて重ねてお礼申し上げます。

今年度の活動は、四月に聖研とぎょうざパーティ（室園）を行い、六月は教区女性の会修養会（箱崎）に合流させていただきました。七月には鹿児島教会、八月八幡教会、九月宮崎教会を土日一泊で訪問させていただきました聖研と交流の時を持ちました。訪れた先々では、暖かく迎えていただき、豊かな交わりの時を得て、「また頑張ろう」と力づけられています。心から感謝いたします。

今後もクリスマス会など様々な活動を予定しております。詳細は各教会へ案内ハガキをお送りしますので、ぜひ近くの青年に、参加を勧めて頂けたら幸いです。



青年会会長  
因 てい子